

若者との意見交換とコラムについて

国土交通省 四国地方整備局
四国圏広域地方計画推進室
令和8年1月23日

若者との意見交換の開催概要

令和4年から6年までで、四国圏の4つ大学の学生を対象に意見交換会を実施しました。
令和7年度は、徳島大学で開催しました。

名称	日時	人数	テーマ
第1回 四国大学	R4.12.12 (月)	7名	「四国で豊かに住み続けるには～10年、20年、30年後を見据えて～」を基本としつつ、以下のテーマについて意見交換を実施 ①四国のいいところ、悪いところ（不足しているところ） ②大学卒業後も四国に残りたいか ③四国が元気になるために力を入れてほしいところ（育児、教育、地域環境、観光資源、産業、福祉、老後、やりがい等）
第2回 香川大学	R5.3.7 (火)	7名	「中山間地域の豊かな暮らし～10年、20年、30年後を見据えて～」を基本としつつ、以下のテーマについて意見交換を実施 ①中山間地域のいいところ、悪いところ ②デジタル活用も見据えた中山間地域での暮らし・働き方 ③地方の豊かさ（魅力）を活かした地域活性化 ※意見交換前には、神山のまちづくりや創造的過疎についてグリーンバレーよりレクチャー
第3回 愛媛大学	R6.2.16 (金)	8名	「フィールドワークを踏まえて、10年、20年、30年後のエネルギー産業や自分たちの仕事を妄想する」というテーマについて意見交換を実施 ※意見交換前には、四国電力西条発電所にて施設見学及び講義を実施
第4回 高知大学	R6.11.20 (水)	8名	「四国の安全安心な暮らし～今や今後も見据えて、四国の災害リスクへ対応するために取り組むべきこと～」をテーマに、以下の観点で意見交換を実施 ①事前対策の観点（防災・減災のために自分ができること、地域で取り組むべきこと、行政で取り組むべきこと） ②事後対策の観点（発災後にどう生活再建するか）
第5回 徳島大学	R7.10.15 (水)	49名	「徳島・三好市を持続可能な地域社会とするために取り組むべきこと」をテーマに、以下の観点で意見交換を実施 ①三好市の強みの観点（強みをつくる・活かすために取り組むべきこと） ②三好市の弱みの観点（弱みを改善・克服するために取り組むべきこと）

若者との意見交換の開催概要

徳島大学の学生を対象に、持続可能な地域社会に必要な取組をテーマに若者との意見交換を開催しました。

【第5回 若者との意見交換】

日 時: 令和7年10月15日(水)
16:20~17:50

対 象: 徳島大学の「地域政策論1」の受講生
計49名



▲意見交換会の様子

狙 い: **人口減少**が進行する中で、**持続可能な地域社会**とするには、「**生産年齢人口**」がポイントとなるため、**就職したい地域となるための方策**について、若者の意見を把握する

内 容: 四国の代表的な中山間地域である徳島県・三好市を対象に、「徳島県・三好市を持続可能な地域社会とするために取り組むべきこと」をテーマに、以下の観点で意見交換を実施

- ① 三好市の強みの観点(強みをつくる・活かすために取り組むべきこと)
- ② 三好市の弱みの観点(弱みを改善・克服するために取り組むべきこと)

若者との意見交換の結果概要

第5回 若者との意見交換及び事後レポートで得られた主なご意見を以下に示します。

① 三好市の強みをつくる・活かすための取組

・ 豊かな自然環境・観光資源

- ⇒ 強みである豊かな自然や観光資源を活かした観光産業の活性化による関係人口の増加
- ⇒ 温泉施設と組み合わせた滞在型の観光プランによる地域経済の活性化や雇用の拡大
- ⇒ 豊富な森林資源を用いたバイオマスエネルギーへの転換

・ 広域での交通アクセス性

- ⇒ 特急駅や高速バス停留所がある利便性を活かした、中心市街地の活性化
- ⇒ 周辺地域へ働くベッドタウンとしての発展

・ 充実した通信環境

- ⇒ サテライトオフィス、リモートワークの拠点としての企業誘致
- ⇒ ICTを活用したオンライン教育やビジネス展開の支援

② 三好市の弱みを改善・克服するための取組

・ 認知度の不足

- ⇒ SNSを活用した県外居住者や若者への魅力発信

・ 生活利便性が低い

- ⇒ 交通アクセスの不便さを逆手にした「秘境」「非日常感」としてのアピール
- ⇒ デジタル技術を活用した生活利便性の向上

・ 人口減少・担い手不足

- ⇒ 空き家の利活用による移住促進、交流拠点への転換による地域交流の促進
- ⇒ 兼業農家の推進に向けた支援

若者との意見交換の結果概要

第5回 若者との意見交換及び事後レポートで得られた主なご意見を以下に示します。

③ 三好市を持続可能な地域社会とするための取組

・ 地域資源を活用した観光促進による発展

- ⇒ 三好市の強みである祖谷のかずら橋等の観光資源や豊かな自然を活かした観光業の更なる推進によって関係人口の増加につながるのではないか
- ⇒ 観光産業の拡大や他施設との連携による雇用の創出が考えられる
- ⇒ 観光業と他分野を組み合わせた体験型プログラムによる魅力の発信が必要

・ 情報発信・他地域との差別化

- ⇒ 特に県外居住者や若者をターゲットとして、SNSやインフルエンサーを用いた魅力発信による認知度の向上が求められる
- ⇒ 観光地の紹介に加えて、三好市での暮らしがイメージできるような情報発信により移住への関心を高める
- ⇒ 「三好市でしかできないこと」を明確にした他地域との差別化

・ 生活基盤の強化

- ⇒ 若者や子育て世代の移住・定住に向けては、住みやすさと安全性は必須条件となる
- ⇒ 医療や子育て、教育、交通等の生活基盤を充実させ、「便利な田舎」を目指すことがポイントとなる
- ⇒ また、安心して暮らせるための災害対策の実施は必須になる
- ⇒ コンパクトシティを推進し、生活の質を高める

若者との意見交換の結果概要

第5回 若者との意見交換及び事後レポートで得られた主なご意見を以下に示します。

③ 三好市を持続可能な地域社会とするための取組

・ 移住促進

⇒ 空き家や耕作放棄地を移住者用の住居として利活用・転用が望ましい

⇒ 空き家等を地域の交流拠点として整備し、新しい住民と地元の人に関わるきっかけを作ることができれば、地域コミュニティの再生にもつながると考える

⇒ 三好市での暮らしを体験できるプログラムや施設の提供し、新しい人の流れを生む

⇒ 「子育てしやすいベッドタウン」として子育てに関する支援制度、施設整備を強化

・ 就業環境の整備・支援

⇒ 通信環境の強みを活かしたサテライトオフィスの誘致、ワーケーションの提案

⇒ スマート林業・農業の推進支援による、一次産業従事者の拡大

⇒ 地元企業とのマッチング制度

・ その他

⇒ ふるさと納税の強化やPRを行い、地域に居住・就業しなくとも遠隔で市を応援してもらう機会を増やし、地域活性化を図る

4.1 「四国らしさを活かした持続可能な観光プロジェクト」

次世代を担う若者からの意見



コラム

観光資源を活かした中山間地域の持続可能性を考える

四国の中心部に位置する中山間地域として発展してきた徳島県三好市を題材に、生産年齢人口を維持することで今の暮らしを守り、持続可能な地域社会を目指すために必要な取組について議論しました。

開催概要

テーマ

徳島県三好市を持続可能な地域社会とするには

開催日 2025年10月15日(水)

参加者 徳島大学の学生 計49名

主な意見

- 三好市の強みは自然環境や祖谷のかずら橋等といった観光資源になるため、それらを活かした観光産業の活性化が考えられる。観光業が活性化すると関係人口の増加や雇用の創出にもつながるのではないかな。
- 持続可能性に向けて観光や移住を促進するためには、認知度が低い状況の改善が必要であり、特に若者の関心を高めるため、SNSを利用した情報発信が求められる。
- 都心部から三好市への移住を考えた場合に、生活利便性は検討材料になるため、医療や子育て、教育、交通等の生活基盤を充実させ、安全安心に暮らせる環境を整えることが重要である。
- 市内に点在している空き家や耕作放棄地を移住者用の住居として活用・転用することや、住民の交流拠点として活用することで地域コミュニティの維持を図ることも考えられる。

意見交換会の様子



(令和4年度)若者との意見交換の開催概要

第1回 若者との意見交換で得られた主なご意見を以下に示します。

対象	四国大学の学生	テーマ	四国で豊かに住み続けるには ～10年、20年、30年後を見据えて～
----	---------	-----	--------------------------------------

① 四国のいいところ、悪いところ（不足しているところ）

【いいところ】

- ・ 海・山・星など自然が多く、四季折々の自然を楽しめる
- ・ 人が優しい・近所の人との距離が近く、人とのつながりがしやすい

【悪いところ】

- ・ 交通網が不便、車がないと色々な所に行きにくい
- ・ 遊ぶところが少ない、娯楽が少ない

② 大学卒業後も四国に残りたいか（残りたい理由・残りにたくない理由）

- ・ 半数が四国(地元)に残りたい、残り半数は迷っている

【残りたい理由】

- ・ 家族や友達が近くにいる
- ・ のどかな雰囲気が良い

【残りにたくない理由】

- ・ 仕事がない
- ・ 遊べるところが少ない

③ 四国が元気になるために力を入れてほしいところ

- ・ 県外への移動手段として新幹線やきれいな夜行バスがほしい
- ・ その他、路線バスや自動車、タクシーなど交通を便利にしてほしい
- ・ 市内以外の遊べる場所(映画館やテーマパーク等)やスーパー、ライブ会場等を増やしてほしい
- ・ 映像系や演劇系などの職種を増やしてほしい



▲意見交換会の様子

3.1 「地域の豊かさと生活の質向上プロジェクト」

次世代を担う若者からの意見



コラム

住み続けたい四国とする ために求めること

若者の四国に対するイメージや暮らしに対して求めるものを把握し、今後、四国に住み続けたいと思われる四国とするために必要な取組について議論しました。

開催概要

テーマ

四国で豊かに住み続けるには
～10年、20年、30年後を見据えて～

開催日 >>> 2022年12月12日(月)

参加者 >>> 四国大学の学生 計6名

主な意見

- 四国の魅力としては、海、山、星といった自然が美しく、四季折々の自然を楽しめることや、近所の人との距離が近く、人とのつながりがしやすいこと等があげられる。
- 移動が不便であり、車がないと移動ができないことから、公共交通機関の利便性向上が重要である。
- 県外への移動手段としては、新幹線の新設や利用しやすい夜行バスの運行が望ましい。県内移動としては、路線バスや電車の運行本数増加により、各地へのアクセス性の向上が望まれる。
- 若者が遊ぶ場所が少ないため、市内以外の遊ぶ場所(映画館やテーマパーク等)の整備のほか、生活サービスとしてスーパーやショッピングモールの充実が求められる。

意見交換会の様子 >>>



(令和4年度)若者との意見交換の開催概要

第2回 若者との意見交換で得られた主なご意見を以下に示します。

対象 香川大学の学生

テーマ 中山間地域の豊かな暮らし
～10年、20年、30年後を見据えて～

- ① 中山間地域のいいところ、悪いところ
 - ・ 【いいところ】豊かな自然や癒やし、ゆっくりとした時間、古き良き文化、住民同士のつながり
 - ・ 【悪いところ】働き手の不足、人とのつながりが発展しにくい、買い物や移動等の生活利便性が悪い
- ② デジタル活用も見据えた中山間地域での暮らし・働き方
 - ・ 一家に一台デジタル機器を配布し、皆が様々なサービスが受けられる体制づくり(オンライン診療、オンラインショッピング等)
 - ・ 災害時のドローン活用による物資調達
 - ・ 行政や移住など各種サービスに関するオンライン相談
 - ・ 離れた家族等とのオンラインコミュニケーション
- ③ 地方の豊かさ(魅力)を活かした地域活性化
 - ・ 地域イベント等により地域コミュニティの形成を進め、その後関係人口の拡大のために地元生活の体験(民宿、非日常体験)等で地域の魅力を発信
 - ・ 豊かな自然を活かして、デジタルにふれない“自然とふれあう”体験(道徳の教育等も含む)による賑わいの創出
 - ・ コミュニティ形成の一環で地域全体での職業体験スキームの構築



▲意見交換会の様子

5.2 「安心して暮らせる四国づくりプロジェクト」

● 次世代を担う若者からの意見 ●



コラム

中山間地域の持続可能な暮らしについて考える

中山間地域の魅力を活かした地域活性化に向けて、デジタル技術を活用した暮らし方や活性化方策について議論しました。

★ 開催概要

テーマ

中山間地域の豊かな暮らし
～10年、20年、30年後を見据えて～

開催日 >>> 2023年3月7日(火)

参加者 >>> 香川大学の学生 計7名

★ 主な意見

- 中山間地域においては、豊かな自然が多く、都心部と比較してゆっくりとした生活が送れるという強みを活かして、デジタルにふれない“自然とふれあう”体験による賑わいの創出、地域活性化が考えられるのではないかと。
- 地域イベント等により地域コミュニティの形成を進め、その後関係人口の拡大のために地元生活の体験(民宿、非日常体験)等で地域の魅力を発信することも考えられる。
- 病院やスーパーが近くにない等、生活サービスが不足するため、一家に一台デジタル機器を配布することで、オンライン診療による医療サービスやオンラインショッピングによる商業サービスをデジタルデバインドなく住民一人ひとりが受けられることが重要である。

意見交換会の様子 >>>



(令和5年度)若者との意見交換の開催概要

第3回 若者との意見交換で得られた主なご意見を以下に示します。

対象 愛媛大学の学生

テーマ フィールドワークを踏まえて、10年、20年、30年後のエネルギー産業や自分たちの仕事を妄想する

エネルギー産業の発展に向けて自分ができること

- エネルギー産業の発展に向けて自分ができることは、まずCO2排出量の削減を自分事として捉え、消費電力の削減等の身近なことから取り組むことが考えられる
- 環境に配慮したライフスタイルとして、公共交通機関や電気自動車への切り替えが考えられる

将来的にどんなことがしたいか・目指したい社会は

- 地域でのくらしを充実するため、環境(自然)を守り、自然と共生できる社会の構築が重要
- 将来は、地元(四国)に残り地元に戻元し、地域の特色を生かしたまちづくりや地域課題の解決に関わりたい
- また、生活をサポートするための技術開発や、環境に配慮した電気自動車の利活用、あるいは関連する仕事(公務員やコンサルタント等)に従事したい



▲意見交換会の様子



▲施設見学の様子

※フィールドワークでは、意見交換前に高効率な新設備の導入やバイオマス燃料の活用等によりカーボンニュートラルに取り組んでいる四国電力西条発電所にて施設見学及び講義を実施

2.1 「四国脱炭素プロジェクト」

● 次世代を担う若者からの意見 ●

▶ コラム 今後の環境配慮について思うこと

四国電力西条発電所での施設見学・講義を踏まえて、四国の地場産業の更なる発展、環境に配慮した社会に向けて、自身ができることや目指すべき社会のあり方等について議論しました。

★ 開催概要

テーマ フィールドワークを踏まえて、10年、20年、30年後のエネルギー産業や自分たちの仕事を妄想する

開催日 2024年2月16日(金)

参加者 愛媛大学の学生 計8名

★ 主な意見

- エネルギー産業の発展に向けて、まずCO2排出量の削減を自分事として捉え、消費電力の削減等の身近なことから取り組むべきだと感じた。
- 環境に配慮したライフスタイルとして、公共交通機関の利用や、電気自動車への切り替えが考えられ、自然と共生できる社会の形成が重要だと思う。
- 将来は地元・四国に残り、地域に還元できるような地域課題の解決に関わる仕事がしたい。

意見交換会の様子



施設見学の様子



(令和6年度)若者との意見交換の開催概要

第4回 若者との意見交換で得られた主なご意見を以下に示します。

対象

高知大学の学生

テーマ

四国の安全安心な暮らし
～今や今後も見据えて、四国の災害リスクへ対応するために取り組むべきこと～

自分の身の回りに潜む災害リスク

- キャンパスの周辺の危険な箇所(用水路、道路が狭く密集した住宅街、古いブロック塀)、市の中心部や海沿いの観光地などに出かけた際の避難場所が分からない、火山噴火と津波が両方来るような複合災害のときの避難のしかたが分からない
- 災害リスクを回避するためには、緊急時に避難できるような道路を整備する、災害時に避難できるビルか分かるように所有者にステッカーを張ってもらう、観光マップやマップアプリに避難施設を記載する、普段から避難場所の把握などの意識啓発をしてほしい

事前防災

- 避難場所や避難ルートの確認、備蓄など発災直後を生き抜くための準備は個人で行うべきである
- 地域や行政ではドローン等による空のルート活用、ゆるキャラやインフルエンサーによる防災意識の普及等が必要
- また、小中学校、高校の防災体験学習のカリキュラム化も考えられる

事後防災

- 災害からの復興の視点では、更地から災害に強いまちづくりをやり直すために事前に被災後のまちの姿を考えておく、温暖化対策で海面上昇を抑制し天井川の氾濫を防ぐことが重要
- 明日発災したとしても高知に留まって地域に貢献したいが、被災者への経済的サポートがほしい
- 事後防災に向けては、シンボルとなるような新たな施設整備や被災状況・復興過程を周知するためのツアー等も検討できる



▲意見交換会の様子

1.1 「大規模自然災害への防災力向上プロジェクト」

● 一次世代を担う若者からの意見 ●



コラム

安全安心な四国に向けて

四国圏全域において甚大な被害が想定される南海トラフ地震に対し、住み続けられる四国とするために自身ができること、必要な防災・減災対策や復興の取組等について議論しました。

★ 開催概要

テーマ

四国の安全安心な暮らし

～今や今後も見据えて、四国の災害リスクへ
対応するために取り組むべきこと～

開催日

2024年11月20日(水)

参加者

高知大学の学生 計8名

★ 主な意見

- 普段の生活に潜む災害リスクとして、外出時や複合災害が発生した時の避難の方法が分からないという不安がある。緊急時でもすぐに避難できる施設が分かるように、避難施設におけるステッカーの掲載、観光マップやマップアプリにおける避難施設の記載等の対策や普段からの防災意識を高める意識啓発が必要である。
- 防災意識の普及には、ゆるキャラやインフルエンサーを活用した呼びかけや小中高校での防災体験学習のカリキュラム化が考えられる。
- 被災後の復興の視点では、災害に強いまちづくりを行うために事前に被災後のまちの姿を検討することが重要である。また、従来の居住者に復興後も住み続けてもらう、または戻ってきてもらうためには、経済面でのサポートが求められる。

意見交換会の様子

